



MEDICAL OFFICE

医療の最前線からのワンポイントアドバイス

医学部 教授（内科学教室（呼吸器））

ふくながこういち
福永興壹

備えあれば憂いなし〜コロナ禍における医療との関わり〜

新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）感

染症（以下コロナ感染症）は未曾有の感染症として全世界に蔓延し、我々の生活を一変させました。2020年1月には国内最初のコロナ感染症患者が確認され、我々の毎日の生活はこの新興感染症によって大きな影響を受けています。もちろん我々医療現場もその影響を如実に受け、医療現場の逼迫がしばしば報道されてきました。一方で「医療現場はコロナ対応で大変だから」あるいは「病院は感染のリスクがあるから」といった理由による患者さんの受診控えが新たな問題となつています。

常の工夫と予防を心がけること、そして病気のコントロールをしておくことがとても大切です。きちんと病態がコントロールされている方は万が一コロナ感染症に罹患した場合でも重症化を防げる可能性が高くなります。また喘息などは重症化と関連がないと言われていますが、治療をきちんと受けていない方は重症化につながるという報告もあり、これまで何らかの病気で定期的に通院歴のある方は、医師の指示のもと内服薬の継続、適切な検査などによる病態の把握がとても重要です。

また発熱、長引く咳などはコロナ感染症に限った症状ではありません。それ以外の病気の可能性もあり、数日様子を見ても改善しないようであれば医療機関への受診が必要です。さらにがん検診を含む定期健診控えは生活習慣病あるいはがんなどの早期発見・治療の機会を逃してしまう可能性があるため、こちらも定期

的な受診をお勧めします。

この1年間の経験を生かして、多くの医療機関では院内感染対策を徹底して行っています。例えば慶應義塾大学病院においても三密を避ける工夫として、待合室の混雑回避のために診療枠人数の調整・均てん化やLINEによる院内呼び出しシステムの導入などを試んでいます。

健康に不安のあるときはかかりつけ医に相談しましょう。健康に関することを相談でき、必要なときには専門の医療機関を紹介してくれる頼りになる身近なかかりつけ医を持つことは大切なことです。まだかかりつけ医をお持ちでない方はぜひこの機会に検討してみたいかがでしょうか？

コロナ禍においても健康管理を怠らないことが万が一感染してしまったときにも重症化しない大事な要因（ファクター）の一つです。備えあれば憂いなし、何とかこのコロナ禍を皆さんで乗り越えていきましょ。